

## 別紙 1

### 第 1 4 回精神保健福祉士国家試験の合格基準及び正答について

#### 1 合格基準

次の 2 つの条件を満たした者を合格者とする。

- (1) ア 総得点 156 点に対し、得点 73 点以上の者（総得点の 60% 程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は 1 問 1 点である。）。

イ 試験科目の一部免除を受けた受験者（精神保健福祉士法施行規則第 6 条）  
総得点 80 点に対し、得点 35 点以上の者（総得点の 60% 程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は 1 問 1 点である。）。

- (2) (1) のア又はイを満たした者のうち、(1) のアに該当する者にあつては、試験科目（ただし、精神保健福祉援助技術については、「一問一答問題」と「事例問題」をそれぞれ別個の試験科目とみなす。）16 科目（(1) のイに該当する者にあつては、6 科目。）の各科目すべてにおいて得点があつた者。

#### 2 正答

##### 【専門科目】

##### 精神医学

問題番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正 答	4	1	1	4	5	3	2	4	3	5

##### 精神保健学

問題番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正 答	2	1	3	2	2	5	4	正答なし	3	5

##### 精神科リハビリテーション学

問題番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正 答	4	1	4	3	3	5	1	5	2	3

##### 精神保健福祉論

問題番号	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
正 答	5	2	1	3	3	1	2	3	3	3
問題番号	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
正 答	1	5	1	5	2	4	1	5	4	2

##### 精神保健福祉援助技術（一問一答問題）

問題番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59
正 答	5	4	3	3	2	1	2	1	3
問題番号	60	61	62	63	64	65	66	67	68
正 答	2	4	1	5	2	3	3	2	4

##### 精神保健福祉援助技術（事例問題）

問題番号	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
正 答	1	5	5	4	5	1	3	2	4	3	2	4

【社会福祉士・精神保健福祉士共通科目】

人体の構造と機能及び疾病

問題番号	1	2	3	4	5	6	7
正 答	1	5	2	4	1	5	3

心理学理論と心理的支援

問題番号	8	9	10	11	12	13	14
正 答	5	1	4	2	5	4	1

社会理論と社会システム

問題番号	15	16	17	18	19	20	21
正 答	4	3	5	3	1	4	2

現代社会と福祉

問題番号	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
正 答	4	5	4	5	1	1	3	4	1	2

地域福祉の理論と方法

問題番号	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
正 答	5	4	3	1	2	2	1	5	4	5

福祉行財政と福祉計画

問題番号	42	43	44	45	46	47	48
正 答	2	4	4	5	3	1	5

社会保障

問題番号	49	50	51	52	53	54	55
正 答	2	1	2	3	4	5	5

低所得者に対する支援と生活保護制度

問題番号	56	57	58	59	60	61	62
正 答	3	5	4	5	1	2	3

保健医療サービス

問題番号	63	64	65	66	67	68	69
正 答	3	2	3	4	2	5	4

権利擁護と成年後見制度

問題番号	70	71	72	73	74	75	76
正 答	4	1	2	5	3	5	4

第14回精神保健福祉士国家試験における正答の取扱いについて

1日目 午後（専門科目） 問題18

問題 18 児童虐待の最近の状況に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 全国の児童相談所での児童虐待相談対応件数は、児童虐待の防止等に関する法律の施行以来、年々減少傾向にある。
- 2 虐待死事例（心中を除く）では、望まない妊娠/計画していない妊娠など、母親が周産期から問題を抱えている事例が約2割に及ぶ。
- 3 虐待死事例（心中を除く）で、最も多い虐待種類はネグレクトである。
- 4 虐待死事例（心中を除く）では、小学生の死亡者が半数以上を占める。
- 5 虐待死事例（心中を除く）で、主たる加害者の約半数は実父である。

採点上の取扱い

全員に得点する。

理由

選択肢1については、全国の児童相談所における児童虐待相談対応件数は、児童虐待防止に関する法律の施行以降も増加しているため誤りである。

選択肢2については、母親が周産期から問題を抱えている事例が必ずしも約2割とは言えないため誤りである。

選択肢3については、虐待死事例（心中を除く）において最も多く見られる虐待種類は、「身体的虐待」であるため誤りである。

選択肢4については、虐待死事例（心中を除く）のうち、0～5歳児の死亡者が9割を占めているため誤りである。

選択肢5については、虐待死事例（心中を除く）のうち、実父が主たる加害者に占める割合は約4分の1であるため誤りである。

したがって、正答となる選択肢がない。